

平成 28 年度 第 15 回拡大自治会情報交換会報告

日 時 平成 29 年 1 月 30 日(月) 13:30~16:30
場 所 四街道市文化センター 301 号室 参加者 81 名
内 容

- (1) センターから 自治会情報交換会の経緯説明、講師紹介
(2) 講義「自治を回復し、まち・むらの課題を、まち・むらの力で解決するために
～総働と小規模多機能自治のすすめ～」

講師 I I H O E [人と組織と地球のための国際研究所] 代表者 川北秀人

※講義の要点

2020 年の世界・日本は？

- ・日本の国民一人当たり GDP は世界の何位？⇒2000 年 4 位→2014 年 27 位
- ・高齢者率は？→社会保障（医療・介護）費はいくら増？
⇒2000 年 高齢者 2200 万人 医療 10 兆+介護 3 兆→2010 年 2948 万人 12 兆+7 兆
→**2020 年 3612 万人 16 兆+9 兆**←生産人口 **11%減!**

- ・既存インフラ&ハコモノの維持・更新費用は？

法定耐用年数（50 年）を経過するインフラの比率

橋 2013 年 18%→2023 年 43%→2033 年 67%、トンネル 20%→34%→50%

水道 66 万 km 法定 40 年経過 12%⇔更新 0.7%！「130 年かかると想定」

⇒世界市場での存在感も、地域も国も「このまま」じゃ全然ダメ！

2020 年の四街道市は？

- ・高齢者率は？→30.1%（全国より 5 年早い）！75 歳以上は？→13,400 人（市民 **6.5 人に 1 人**）！
⇒ヘルパーなど、福祉の担い手は、あとどれだけ必要？医療・介護費は、いくら増える？
→ **高齢者の健康=地域の資源+資産!**

- ・生産人口は？→2010 年比 9%減⇔後期高齢者 **89%増**

- ・市税収入は？市債残高は？ 利息は 1 日いくら？

- ・既存インフラの補修・更新コストは？→道、橋、公営住宅、上下水道をどれだけ残す？

→ 人件費・扶助費・公債費に次ぐ「第 4 の義務的経費」

自治会・町内会は、**行事を半減して、事業=福祉+経済を!**

【現在】

親睦も安全も福祉も行事の連続。

→地域の住民が気軽に付き合い、
日常生活に必要な情報交換や
安全確保などを行なうとともに、
地域生活をより快適にするため、
自主的・自発的に共同活動しながら、
まちづくりを進める。



【今後】

「小規模多機能」自治!

→行政機能の集約化を補い、
住民減少・高齢化などに伴い
必要性が高まる安全・安心の
確保のための「適地適作（策）」型の
地域づくりを進める。

人口減・85歳以上増に備えるには、時間の使い方を変えるしかない

- ・行事の棚卸し→ますます行事<事業=福祉+経済！
- ・会議の棚卸し→時間を最大限に活用するために、話す・調整するより、**現場で動く時間を！**
- ・組織の棚卸し→会・団体・自主組織の部会は毎年白紙に（会の数だけ役がある！）

次の10年に求められる自治組織の機能？

- ・人口構造の見通し（予測）をつくる！→何年後までにどうなりそうかを見通す
- ・住民調査で「事業・サービスへの評価」と「困りごと・不安」「これなら手伝える」確認！
→部会メンバーの希望<住民の需要！+ 提供できる事業を、少しずつ積み重ねる
- ・部・部会は、継続より進化・再編を！→①被災者支援訓練 ②子どもの地域参加
③料理で女性の世代間交流 ④「夜」行事

地縁団体は「行事・活動→事業」「役割・運営→経営」へ

行政は「要望を聞いて対応 →事業と組織の経営支援：定量情報の提供+基盤の整備」

（→地域が自ら現状を理解して、**小規模多機能化を進める支援を**）



川北さんの講義



グループディスカッション

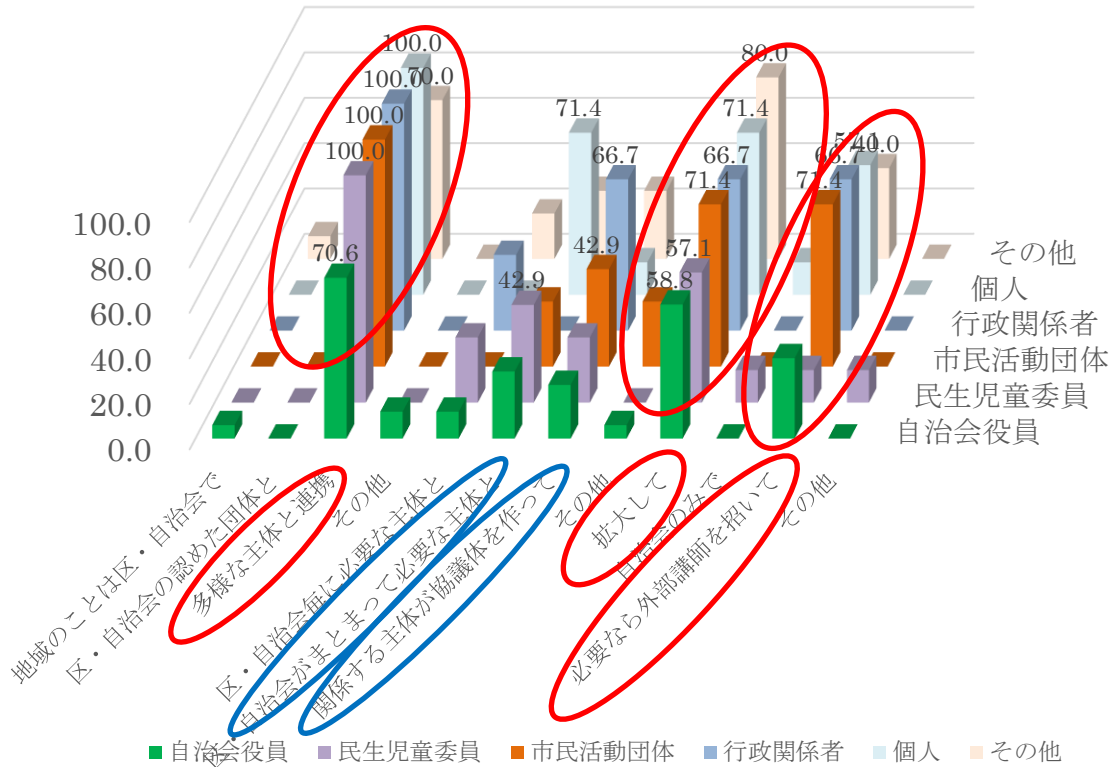
(3) アンケート集約結果 別紙参照

(4) まとめ

今回の拡大自治会情報交換会は81名の方々の参加をいただきました。川北さんの熱心な講義に3時間の予定もあっという間に過ぎた感がありました。今回のテーマ「5年先・10年先にむけて、今始めるべきこと」はまさに喫緊の課題です。四街道市では2025年(8年後)には、4人で1人の後期高齢者を支えなければならない状況になります。講義で示された数々の予測データは、市にとっても住民にとっても容易なことではないことを示しています。従来行事主体の前例踏襲形の自治会運営から講義で示された小規模多機能自治への転換が求められています。今回のアンケートの集約結果では参加された大半の方から、従来の区・自治会単位の活動から地域でまとまって、多くの団体と連携した対応が求められる結果となりました。

今回の情報交換会には、自治会関係者だけではなく民生児童委員、市民活動団体や行政に関係する方の他、市外からも11名の方の参加があり、今回のテーマへの関心の高さが窺われました。「もっとじっくり聞きたかった」「もっと意見交換する時間が欲しかった」というご指摘がありましたことは、次回の課題とさせていただきます。

第15回拡大自治会情報交換会アンケート選択回答結果 (%)



第 15 回拡大自治会情報交換会 アンケート記述回答まとめ No1

	問⑥ 取り組まなければならない課題として、強く印象に残ったもの	問⑦ それを今後どのように取り組んで行くか
自治会関係	時代に合った自治活動。	原点に戻って白紙から考える。
	現状調査。それぞれの世帯の家族構成。自治会員が顔を合わせる簡単な行事を、失敗を恐れずにやる。(餅つき、バーベキュー大会、カラオケ大会)	自治会役員との対話。現行行事の見直し。新規取り組みの実施。
	現在、当自治会にて取り組もうとしていることについて、自治会行事、防犯、防災 etc を補助していく部会をつくるにおいて、人口推計を出していくこと。	国勢調査を参考にしてみます。
	小規模多機能化。	都市型住宅地として、どのように進めるか、まだ見通せない。
	年齢構成予測。	自治会として意を新たに対応したい。
	子ども会の支援と合わせて、シニア世代の対応を取り組まなければならない。	

自治会関係	自分たちで何ができるのかをアイデアを出し合い進める。前例通りにやるのは安全で容易だが、高齢化に対応したやり方を考えて行きたい。	時間の調整とか回数の見直し。
	みらいの予測	まだ分からない。
	地域の人口構成を考えた自治会活動をしていなかったの、考えて行きたい。	
	私も74歳になり、フレキシブルな思考を心掛けておりますが、自治会員の思考の硬直に困っております。今日出席して、間違いのなかったことに勇気をいただきました。	・自治会の行事、予算等の見直しに取り組みます・自治会との対話の中から、固定観念の打破を試みたい。祭りやイベント中心現状を変えたい・自治会にマネジメント感覚を導入する。
	人々がつながるべき運命にある。負の表現として「少子高齢」があるのではなく、地域に尽力できる社会資本の利益活用の方途が忘れられていないだろうか。自治とは、下請けではなくボトムアップの起動にこそあるべきと考えます。	現状に多少の問題があるなら、超高齢社会は破たんするものと危惧しています。社会資本の中では、地元企業や商店も重要で、「よそ者・若者」を加え新しい発想でコミュニティを活性化したいと考えています。
高齢者対策、交流会実施、総働。	後期高齢者との交流方法、単身高齢者との交流方法。	
民生児童委員	自治会等が現状を知り、将来を予測して方向計画を進める。	自治会及び自己の活動の取り組みとしていきたい。
	街の今・何をではなく、全体で未来を作ろう。	子ども達に愛着を残すのではなく、共に育ってきた街を残すことを。
	高齢化率が高くなる時代、地域全体が情報を共有することの大切さを感じた。	私の地域では、今年から年8回健康教室を開催することになった。その機会を大いに利用したいと思った。
	行事の棚卸し。人口構成の予測	
向こう三軒両隣が大事かな。	自分のこととしての取り組み。	
市民活動団体	小さな地区ではなく、これからの事業活動について地域で考えることが必要と思います。	
	子どもをお客さまにしない。女性役員を増やす。	子どもが活躍できる場、意見を発信できる場を増やす。自治会活動に子どもを連れて参加する。
	自治会の考え方を変えたい。20年間何も変わらないので。	人のことと思わず、自分のことに置き換えて行動したい。
行政関係者	小学生や中学生の地元への愛着度を上げること。	現在、職業体験やボランティア体験を多くの団体が行っているが、もう一步踏み込んで地元の情報や良いところを伝えていくことが大事だと思った。お互い相談し合いながら事業を進めていきたい。

行政関係者	人口予測に基づいた企画・実践をしていかなければならないことを改めて強く感じた。市が認識していかなければ！！	市庁内で情報共有できるように、今日のような勉強・研修がしたい。担当の人事に提案します。
	地区の課題を解決するには、地区でまとまって先のことまで見通す力が必要で、特に女性の役員さんを発掘していくことが必要。	同じ人ばかりが関わるのではなく、いろいろな方が地域を考える場所が必要。この地域に愛をもって、またここで生きていける経済・仕事を作り出すことが必要。
個人	1.高齢化 2.子どもがいない 3.個人情報 4.連携	
	国勢調査により、5・10・20年後の人口統計をベースに、各自治会(小学校区)の課題をみつけ、連合して取り組んでいけばよいと思った。	まずは高齢化・少子化対策をできる(前例をもとに)ことから実施。四街道市でもできる勇気をいただきました。
	地域は自分達で作るということ。	防災・エコなど。
	人口構成などの実態の正確な把握・予測。	
	中学生以上の人全員にアンケート調査をして、年代別のニーズを把握する必要がある。また同時に人口構成図を作成し、5～10年後を予測した取り組みにしていこう。	まずは自治会長に提案していく。
	協働から総働への運動を促進すること。小規模多機能自治組織は柔軟であらゆる問題にすばやくしかも効率的に、金のかからない活動が可能となる。コミュニティスクールの話は、具体的で感動的でした。	中央集権体制から地域主権体制へ変革する必要がある。小規模多機能自治組織に財政権限を与えるべきである。財政問題を解決するために緊急性もある。いつまでも先送りは許されない。中央官庁の縦割りへの指令統治は時代遅れで、財政破たんも免れない。
その他	1.情報は、世帯で聴くのではなく、個人に聴く。2.人口・行事・出席者等データは残して整理しておく。	アンケートを取る必要のあることが多いので、上記の考えを取り入れたアンケートにしたい。
	後期高齢者(単身)の見守り等々のための自治体の活動。	
	地域に住んで20年くらいになるが、当地区の民生委員にあったこともないし、講義をうけたことがない。	
	同じ四街道市の中で、地域で高齢者。	祭りなどのイベントではなく、集会所の修理などの経営が大事。
	島根の三地区のお話は、これからの時代に考えさせられることが多くありました。	私たちの会で、少しずつですが話し合いのきっかけになることを望んでいます。
	3つのポイント。地区の課題を若い世代と解決した事例。	

講座への助言

<p>一般論としては大変良い勉強になった。サラリーマンの多い衛星都市四街道と1次産業の多い地域(浦幌や島根県)とは一括りで論じられない。衛星都市の例を出して欲しかった。浦幌町の取り組みには感心したが、浦幌には試験場があったので、まちの状況は知っており、四街道とはあまりに状況が違いすぎるので参考にしにくい(考え方には感動したが)。四街道(旭ヶ丘)の特徴に踏み込んだ内容での検討会をやる必要がある。次は、サラリーマン、定年退職者。子供たちが市から離れていく四街道の特性に合った勉強会、検討会が必要。</p>
<p>時間が足りない。</p>
<p>話しが速く、追従困難だった。(個人的理由、ボケ?)</p>
<p>聴き手の問題であるが、内容が斬新で、次々と進むためじっくり理解できないままになって残念。時間に合わせて、絞り込んで考えられるように、時間を取ってもらえればありがたい。</p>
<p>置かれた地域の、同じような問題点を共有する、地域でまとまった交換会は意味があると思います。</p>
<p>自分で努力することが残されていると思う。</p>
<p>個別相談できる機会を作る。地域づくりセンターですでに行っているのであれば、それを発信する。</p>
<p>近所の方を知らない。まず、足元から。</p>
<p>問題意識をもって参加のためか、ぐいぐい話の内容に入り、ここで聞きっぱなしではなく、後半1分間の感想の中でもあったように、民生委員として活躍している方々にエールを送りたい。</p>
<p>講師は、行政の方が少ないとのことでしたので参加してほしかった。今回は、お知らせをいただいたので参加できたが、もっと沢山のひとにも聞いてほしかった。</p>
<p>早口なので、内容を理解するのに大変である。コンテンツはほぼ満足。いいね!します。</p>
<p>質問の時間と四街道に対する具体的提案があっても良かったのではないかなと思う。</p>
<p>もっとゆっくり聞きたい。</p>
<p>取組みは漠然としていますが、これから徐々にやって行きたい。</p>
<p>自己地区アセスメントの実際について、個々に。</p>

